

平成22年度 第3学期 始業式あいさつ

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。年の初めに当たり、生徒、先生方全員、ご家族の皆さんが、この一年を、体も心も健やかに暮らせるようにお祈りしたいと思ひます。

さて、今年のお正月は絶対にこの映画を観ようと決めていました。それは「宇宙戦艦ヤマト」です。ストーリーもさることながら、あの唄の歌詞、特に2番が最高にいい。「地球を救う 使命を帯びて 戦う男 燃えるロマン 誰かがこれをやらねばならぬ 期待の人が俺たちならば・・・」これは、武蔵丘高校が掲げる「利他の志」そのものなんですね。歌詞は男だけど、女性も一緒です。黒木メイサ演じる森雪たちも一緒に戦うわけですから。

この「ヤマト」を観ると決めたのには訳があります。それは、岩波書店が発行する「科学」という月刊誌があり、その2011年1月号で「利他の心」を取り上げているからなんです。しかも、連載でも「利他の心」、創刊80周年記念の特集テーマも「利

他の心」なんです。

武蔵丘高校は、今年の4月から目指す目標として「利他の志」を掲げてきました。それは、君たちの中に強く根を張る「利他の志」が見て取れたからです。それから約9カ月、日本が世界に誇るに岩波の「科学」が、記念すべき特別の号に「利他の心」を連載でも特集でも取り上げ、科学の面からそれを論じるなんて考えてもみませんでした。

宇宙戦艦ヤマトが描いているのは2199年、約200年後の地球です。地球は、「ガミラス」という正体不明の敵にやられて放射能に汚染され、破滅の危機に陥るわけですが、今の地球も近現代文明という名の放射能に汚染されたような状態と言えるかもしれない。地球の自然環境も、人が仲良く暮らすコミュニティも、人の生き方それ自体もかなりの危機に瀕しているように思えてなりません。この危機を乗り越え、解決するキーワードが「利他の心」にある。そうした世の中が「科学」の編集者を突き動かしたのではないかと私は受け止めています。

広辞苑などによると、「利他」は、自分を犠牲にして他の人や環境に尽くすという意味となっていて、自分の利益を求める「利

己」とは相いれない対立するものだとされています。

しかし「科学」によれば、自分の利益、「利己」だけを追求する生命体は滅び、利己に利他の要素がつけ加わった生命体の方が増殖して繁栄するそうです。また、利他を求める欲求は、おいしいものを食べたいな、とか、自分を誰かに認めてもらいたいなというような欲求とは違って、ここまでという限界がない、飽和してしまうことがないそうです。こうした説が、仮説の段階ですが登場していること自体が素晴らしい。人間こそ地球を滅ぼす敵だとか、時に自分のことだけで頭がいっぱいになりして、自分が何の役にたつんだらうとか考えてしまうこともあるわけですが、そうした中で、利己は誰にでもある、大事なものはそれだけじゃなく、利他の心と一緒に持っているかどうかなんです。この、人として生きる道標を科学が教えてくれる…。科学の素晴らしさをあらためて実感します。

この岩波の「科学」の一部と、私が都政新報という新聞から依頼を受けて年末に書いた記事とを増し刷りして今日のホームルームでお配りする予定です。ちょっと難しい歯ごたえのある文章かも知れません。私も何度も何度も読んでやっと理解でき

ました。私からの今年初めの「恋文、そして挑戦状」です。ぜひ読んでみてください。その上で、特集全体をもっと読みたいという人は、図書館で用意してくださいました。ぜひ手にとってみてください。特集の中には、今年の70周年のコンサートでレクチャーをしてくださった国立精神神経センターの本田学先生たちの論文も載っています。

もう少し別のアプローチはないかという人には、お勧めの小説があります。山本一力が「江戸っ子」の世界を描いた小説です。「江戸っ子」は、我々のちょっとだけ前の先輩です。「江戸っ子」の生き方は、「利他の志」の典型です。文庫本になっているものはすべて図書館にあります。実に心がわくわく浮き立つ本ですので、ぜひ読んでみてください。

この1年、素晴らしく輝かしい年になるような予感がします。チャンスを逃さずしっかりと自分たちのものにできるよう、ともに努力を重ねましょう。

以上をもって新年の挨拶とします。

平成23年1月11日

武蔵丘高等学校長 谷島 昭